

平成30年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

平成30年度に実施された「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2292号農林水産省農村振興局長通知)第14の1の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

平成30年度に交付金事業を実施した北海道内の29地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。その結果、優良と認められる地区が21地区、良好と認められる地区が6地区、低調と認められる地区が2地区との評価結果となった。低調と認められる地区に対しては、重点的な指導、助言等を行う。

3. 各地区の評価結果 29件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評 価 コ メ ン ト
				H29	H30	R元	R2		
農村振興局	北海道	帯広市	十勝域内「農・泊」観光連携協議会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	三笠市	三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会 株式会社三笠すずき農園	●	●	◇		A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	根室市	歯舞漁業協同組合	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	七飯町	七飯大沼農泊観光推進協議会 どさんこミュゼ株式会社	●	●	◇		B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
農村振興局	北海道	寿都町	北海道寿都町水産業産地協議会	●	●			B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
農村振興局	北海道	栗山町	栗山町農泊推進対策協議会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	月形町	北の里泊ネット	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	東川町	ひがしかわ子ども農村体験交流推進協議会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評価コメント
				H29	H30	R元	R2		
農村振興局	北海道	美瑛町	一般財団法人丘のまちびえい活性化協会	●	●			B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
農村振興局	北海道	利尻町	利尻地区地域水産業再生委員会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	白老町	ポロトの森エコミュージアム推進協議会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	鹿追町	鹿追町農泊推進協議会 一般社団法人En	● ★	● ★		◇	B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
農村振興局	北海道	鶴居村	特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	中標津町	カモン！なかしべつインバウンド振興推進協議会	●	●			A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	帯広市	帯広ファームトリップ推進協議会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	網走市	オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会		●	○	□	C	総合的に目標の達成状況が低調と認められる。
農村振興局	北海道	留萌市	特定非営利活動法人留萌観光協会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	北広島市	北広島市農泊交流協議会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	石狩市	いしかり古民家活用地域活性化協議会 株式会社AI建築		● ★	○ ☆	□ ◇	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	八雲町	特定非営利活動法人やくも元気村		● ★	○	□ ◇	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	余市町	余市町観光地域づくり協議会		●	□		A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	比布町	世界一大雪山がきれいに見える町びっふ農泊体験推進協議会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	小平町	小平町農泊ビジネス推進協議会		●	○	□	B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
農村振興局	北海道	滝上町	滝上町農泊観光地域づくり協議会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	大空町	大空町地域雇用創出協議会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	平取町	平取町地域活性化協議会		●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
農村振興局	北海道	更別村	更別グランファームツーリズム推進協議会		●	○	□	C	総合的に目標の達成状況が低調と認められる。

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評価コメント
				H29	H30	R元	R2		
農村振興局	北海道	浦幌町	浦幌農泊観光促進協議会		●	○		B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
農村振興局	北海道	標津町	標津町地域協議会		●	□		A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例：ソフト対策 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・・交付対象年度(計画) ★・・・交付対象年度(実施済) ◇・・・目標年度(計画) ◆・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要綱第6の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(農山漁村普及啓発対策及び農山漁村交流対策)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:大江靖雄(千葉大学大学院教授)

委員:市田知子(明治大学教授)、加藤由紀子(北海商科大学教授)、木村宏(北海道大学特任教授)、森久美子(作家)

【令和元年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会

- 1 日時:令和元年7月30日(火) 9:00～11:30
- 2 場所:農林水産省農村振興局第2会議室
- 3 議事概要
 - ① 令和元年度評価委員会の進め方について
本年度における評価の日程、第2回委員会の実施計画等について説明を行い、了承を得た。
 - ② 令和元年度評価対象地区の概要説明
平成30年度に事業を実施した29地区について、取組概要の説明後、質疑応答を行った。
- 4 主な意見
 - 実績は伸びているのに目標に達しておらず評価が伸びない地区があるが、実績の伸びを評価する指標があっても良いのではないか。
 - 滞在日数や滞在時間という視点を盛り込んで指導することは出来ないか。

第2回評価委員会(1日目)【現地調査】

- 1 日時:令和元年8月8日(木) 8:45～18:30
- 2 場所:北海道三笠市、留萌市
- 3 概要
 - ※農山漁村振興交付金(農泊推進対策)及び農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)に関する現地調査として実施。
 - 三笠市の「三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会」を対象として、意見交換と現地調査を実施。
 - 留萌市の「るもい農福連携推進協議会」を対象として、意見交換と現地調査を実施。

第2回評価委員会(2日目)

- 1 日時:令和元年8月9日(金) 9:00～12:00
- 2 場所:TKP札幌札幌ホワイトビルCC
- 3 議事概要
 - ① 令和元年度評価対象地区の評価方法について
本年度の評価方法について、説明を行い、了承を得た。
 - ② 令和元年度評価対象地区の評価について
平成30年度に事業を実施した29地区について、評価(案)及び評価が低調となる地区に対する重点指導案を説明し、質疑応答を行った。評価(案)等について、了承を得た。
- 4 主な意見
 - 地元の理解・協力体制が得られていないように感じる地域がある。そのような地域には十分に指導、助言をしていくべき。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:利尻地区地域水産業再生委員会

令和元年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(ソフト対策)	取組概要(ハード対策)
北海道 利尻町	29年度	農泊推進事業として、受入体制整備強化やプロモーション活動を実施。人材活用事業として専門家による中核法人設立やPR事業の支援を実施。	該当なし

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)体験プログラムは主力であるウニの最盛期後の実施となった時点で、売り上げ目標を達成するために代替となる体験プログラムを実施する必要があった。
(目標達成に向けた指導・助言等)天候によってできない取り組みだけでなく、ウニの養殖施設などでの体験もできるようにしてはどうか。

2. 低調と評価された要因

ウニなどの水産物を活用した体験メニューについて、オフシーズンでの実施となったため、目標達成に至らなかった。

3. 目標達成に向けた方策

既存の体験プログラムの数が少ないため、数を増やすことと天候に左右されないプログラム作りを実施。
現役漁師がガイドを行うなど本物体験による差別化を図るとともに、島内外のイベント等でプロモーション活動を実施。

4. 改善状況

今まで課題となっていた屋内での新規コンテンツを開発。ウニの種苗生産施設も旅行客向けに一般開放し、現役漁師が講師を務めるなど知的好奇心を満たす取り組みを実施。イベント等で漁師のかっこ良さをアピールするとともに、自らが利尻島の水産物の魅力を伝えることで消費者の購買意欲及び旅行意欲の増進に繋げることができ、宿泊者数及び体験プログラムの販売は目標を達成。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:カモン! なかしべつインバウンド振興推進協議会

令和元年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(ソフト対策)	取組概要(ハード対策)
北海道 中標津町	29年度	立地的優位性を活かした「冬」を軸とする食&体験コンテンツの拡充やインバウンド振興のための気運醸成と体制づくりを実施。	該当なし

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)情報発信期間が短く、集客の不安からプログラムの販売単価の大幅値下げを行ったため売上目標の達成がほとんど見受けられなかった。
(目標達成に向けた指導・助言)町全体としての取組になるよう工夫が必要で、冬季間のホテル活用も検討してほしい。

2. 低調と評価された要因

2次採択地域で情報発信期間が短く、町外や海外からの集客を懸念し、町民還元フェアなどで体験料単価を下げたことが主な原因。

3. 目標達成に向けた方策

雪上ドリフト体験に加え、大酪農産地ならではの体験や通年で提供できる体験プログラムの磨き上げや情報発信を強化。
農家が運営するゲストハウスを新たに構成員に加えるなど、外国人旅行者の宿泊の受入体制を整備するとともに、台湾の旅行社に対し営業活動を実施。

4. 改善状況

雪上ドリフトやスノーモービルだけでなく、雪上乗馬体験や日本最大級のトラクター雪上乗車体験など北海道ならではの体験プログラムを追加。ロングトレイルやチーズ作り体験など春～秋の体験プログラムも増やし、新た依構成員となったゲストハウスの集客などにより売上及び外国人旅行者数の目標を達成。